

航空機操縦士養成連絡協議会

技量向上ワーキンググループ

令和元年度とりまとめ

1. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

2. 令和元年度における取組み

平成 29 年度に技量向上ワーキンググループのこれまでの活動に関する関係者へのヒアリングを実施して以来となるワーキンググループの活動として、令和元年度は、平成 29 年 2 月以来となる第 3 回操縦技量等フィードバック会議を令和 2 年 2 月に開催した。

航空会社及び養成機関に対する事前のアンケートにより、主に以下のような論点が挙げられた。

■ 航空会社

- ✓ コミュニケーション能力が課題。2 人操縦を意識して、コミュニケーション能力のような CRM の基礎を養成機関で身に付けてほしい。
- ✓ 積極性が不足している訓練生が見受けられる。
- ✓ 養成機関の段階から早めに訓練生の適性を見極めてほしい。各養成機関における適性スクリーニングの内容を共有してほしい。

■ 養成機関

- ✓ CRM や ATC の教育について独自の取り組みを行っている。
- ✓ 航空会社の現役操縦士 OB による説明会等の取り組みを行っている。(効果が期待できるので、より積極的にやりたい)
- ✓ 各航空会社が求める能力や、入社後の訓練でうまくいかなかった具体例、要因分析等を教えてほしい。

こうした論点を踏まえ、会議においては、航空会社における訓練課程で見られる傾向や採用評価基準の工夫、養成機関におけるコミュニケーション能力等の向上のための取り組みといった内容について議論が行われ、航空会社と養成機関の情報交換が以前に比べて進んでいること、養成機関における教育の質を高めていくために、今後も航空会社との間でさらなる協力が必要といった点が話し合われた。また、航空業界として課題となっている「教官不足」についても、今後議題として取り上げてほしいという意見も挙げられた。

なお、本会議に併せて、操縦士志望者のエアライン操縦士としての適性判定手法に関する平成 29 年度の航空局の調査内容に基づき、共有可能なベストプラクティスをまとめた資料を、ワーキンググループ構成員に配布し、情報共有を図った。

3. 今後の取組み

第3回操縦技量等フィードバック会議の結果も踏まえて、令和2年度以降も引き続き、航空会社及び養成機関を交えた意見交換、情報共有等により、より質の高い訓練生の養成を目指すとともに、課題とされている教官不足についても取り組みを検討する。

<<添付資料>>

- ・技量向上ワーキンググループ構成員名簿